

生活			理科		
サ 生命・自然			ア 身の回りの生物		イ 季節と生物
小学部 1段階	小学部 2段階	小学部 3段階	中学部 1段階	中学部 2段階	
教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天候の動きなどに関わる学習活動	身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動	身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動	
思考表 (ア) 身の回りにおける生命や自然に気づき、それを教師と一緒に丁寧に伝えようとする。	(ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	(ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。	思考表 (イ) 身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気づき、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。	思考表 (イ) 身近な動物や植物の成長の変化について調べる中で、見出した疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。	
【自然との触れ合い】			【動物の姿の違い】		
身近な自然の中で遊ぶこと／自然を利用した遊びをすること／校外学習などの際に自然に親しむこと			⑦ 生徒の身の回りに見られる様々な生物の色、形、大きさなどの特徴について調べる活動		
・公園、川、野山、海などで楽しく遊び、自然の事象や事象に触れ、生き物などに興味や関心をもつこと	・自然の事象や事象に触れ、自然がその姿を変えることが分かったり、動物の動きなどに興味をもったりすること	・草木、木の実、落ち葉などを集めたり、形や色などの特徴をつかんだり、植物の変化を捉えたりすること ・自然の事象として天候の変化などについて学習すること	生物にはそれぞれ固有の形態があることについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること ・「差異点や共通点に気づき」とは、生物の姿について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「虫の形は全部違うのかな」といった考えをもつこと	動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること ・「既習の内容や生活経験を基に予想し」とは、これまでの学習内容や生活において動物を育てた経験などを基に予想すること	
生活単元学習 (校外歩行：公園の自然に親しむこと等) (校内歩行：花壇の植物に関心をもつこと等)			理科 (自然の観察) ～生き物のすがた[春～冬の生き物]～		
生活 (草花や木のはてあそぼう) ～春・夏・秋・冬～			理科 (春・夏・秋・冬の生き物)		
生活 (きせつのずかん) ～春・夏・秋・冬～			生命の連続性／生物と環境の関わり		
日常生活の指導 (朝の会・帰りの会：季節【食べ物・生き物・衣替え・行事等】等に関連した話題に触れること)					
【動物の飼育・植物の栽培】※動物の飼育			【昆虫の育ち方】		
身近に生息する小動物を探したり様子を観察したり、触れたりして、それらに関心をもつこと／世話をしたり、育てたりして、成長や変化に気付くこと			⑧ 様々な昆虫の成長の過程や成長による体の変化を調べる活動		
・飼育している身近な動物に興味をもつこと	・小動物を飼育し、生き物への興味や関心をもつこと ・自分で育てるといった実感をもつ上で、飼育動物のために、校庭の草を刈ったり、給食室に野菜くずをもらいに行ったりすること	・身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育をしながら関心を深めること ・動物を飼育する場合は外敵の防止や気温の変化などに十分配慮し、飼育環境を整えること	昆虫の育ち方には、「卵→幼虫→蛹→成虫」というような一定の順序があることについての理解を図り、図や絵、映像などに記録するなどの観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること ・「差異点や共通点に気づき」とは、昆虫の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと	・観察、実験などの際、「卵→幼虫→成虫」などの変態の仕方が違う昆虫を用意して、比較すること ・その際、生徒の実態に応じて、図や絵、映像などに記録すること ・飼育が「簡単に、身近に見られるもので、昆虫を扱うようにし、日常生活の指導の中で、係活動として学習するなどして、継続的に取り組むなど工夫すること。	
生活単元学習 (校外歩行：区立公園内子ども動物園で動物を見ること・動物に触れること等)			理科 (こん虫を育てよう) ～モンシロチョウ～ ※デジタル教材活用		
生活 (めざせ！生きものはかせ) ※デジタル教材活用			理科 (春・夏・秋・冬の生き物)		
生命の連続性／生物と環境の関わり			生命の連続性／生物と環境の関わり		
日常生活の指導 (朝の会・帰りの会：季節【食べ物・生き物・衣替え・行事等】等に関連した話題に触れること)					
【動物の飼育・植物の栽培】※植物の栽培			【植物の育ち方】		
身近に生息する草花を探したり様子を観察したり、触れたりして、それらに関心をもつこと／世話をしたり、育てたりして、成長や変化に気付くこと			⑨ 植物の成長の過程や成長による体の変化を調べる活動		
・栽培している植物に興味をもつこと	・草花などを栽培しながら関心を深めること ・植物を栽培する場合は、発芽、開花、結実といった一連の成長の様子が分かるような種類を選び、長期にわたる観察を行うこと ・適時、除草したり、肥料を施したりすること	・「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと ・生徒の実態に応じて、図や絵、映像などに記録すること ・栽培が「簡単に、身近に見られるもので、夏生一年生の双子葉植物を扱うようにし、日常生活の指導の中で、係活動として学習するなどして、継続的に取り組むなど工夫すること	植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、花が果実になった後に個体は枯死するという一定の順序があることについての理解を図ること ・「差異点や共通点に気づき」とは、植物の育ち方について、違う点や同じ点に気づくこと ・「疑問をもち」とは、「この花はこの後にどうなるのかな」といった考えをもつこと	植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること ・「既習の内容や生活経験を基に予想し」とは、これまでの学習内容や生活において植物を育てた経験などを基に予想すること ・1年を通しての植物の成長を観察や映像資料などで指導すること ・植物を育てたり、身近な植物について一年を通して定期的に観察したりする活動を通して、身近な植物は、暖かくなる夏までは体全体の成長が顕著に見られ、寒くなる冬になると体全体の成長はほとんど見られないが結実するなど、季節によって成長の仕方に違いがあることや、冬になると種子をつけて枯れたり形態を変えて越冬したりすることなどを捉えるようにすること ・身近で、季節による成長の変化が明確な植物とし、観察の時期については、「暖かい季節」、「寒い季節」として、それぞれ夏、冬を想定しているが、春や秋の特徴的な植物の成長も含めること	
日常生活の指導 (係活動：水遣り係 小1～3 マリーゴールド)			理科 (植物を育てよう～オクラ～)		
生活単元学習 (栽培：小4 朝顔)			理科 (春・夏・秋・冬の植物の様子) ～ミニトマト～		
生活 (そだてよう：) 小5 ヒヤシンス・ 小6 ミニトマト)			生命の連続性／生物と環境の関わり		
日常生活の指導 (係活動：水遣り)					
小3理科 B生命・地球 (1)身の回りの生物			小4理科 B生命・地球 (2)季節と生物		

